

第83回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について

1999年10月以降の全国の火山活動状況は以下のとおりである。

岩手山では地震活動等に大きな変化はないものの、噴気活動が活発化する傾向にある。別紙のとおり統一見解を発表した。

雌阿寒岳、十勝岳及び樽前山では、火口の高温状態が続いている。霧島山では地震回数が増加し、火山性微動も観測した。桜島では噴火活動が活発である。これらの火山では、今後も火山活動に注意が必要である。

1. 北海道地方

1) 雌阿寒岳

- ・ボンマチネシリ96-1火口は、引き続き高温の状態にあり、噴煙量は1998年11月以降やや多い状態が続いている。
- ・地震回数は1999年10月下旬と2000年1月上旬に一時増加した。

2) 十勝岳

- ・62-2火口は、引き続き高温の状態にあり、2000年1月18日に高感度カメラにより火口付近が明るく見える現象を観測した(1999年9月14日以来)。
- ・地震回数は1999年11月下旬から12月上旬に一時増加した。

3) 樽前山

- ・A火口の温度は1999年10月の現地観測で600℃、11月には619℃を観測し、高温の状態が続いた。現地観測では、火口内に赤熱現象を観測した。
- ・ドーム南西火口では活発な噴煙活動が継続し、ドーム南西噴気孔群では噴気活動が活発化して温度上昇や変色域拡大が見られた。
- ・地震回数は1999年7月上旬の顕著な群発以降は少ない状態が続いている。
- ・GPS観測では、1999年10月と7月の測定を比較すると、山頂ドーム付近が最大1 cm程度膨張しているのがわかった。

4) 有珠山

- ・ここ数年間地震回数に増加傾向が認められる。

2. 東北地方

1) 岩手山

- ・統一見解発表：別紙参照。

2) 吾妻山

- ・地震、微動回数がやや多い。

3) 安達太良山

- ・沼ノ平では北部で泥水噴出が継続している。また、沼ノ平南西部等で依然として噴気活動が活発であり、地温の高い状態も継続している。

4) 磐梯山

- ・地震回数が1999年11月下旬に一時増加した。

3. 関東・中部地方

1) 日光白根山

- ・1999年10月下旬から11月にかけて地震活動があった（最大M3.6）。

2) 浅間山

- ・地震回数が1999年11月から12月上旬にやや増加した。

3) 伊豆大島

- ・地殻変動観測によると、島の膨脹傾向が引き続き観測されている。

4) 新島

- ・1999年12月21日に北西沖で地震活動があった（最大M4.2）。

5) 神津島

- ・地殻変動観測によると、島の膨脹傾向が引き続き観測されている。

6) 三宅島

- ・地殻変動観測によると、島の膨脹傾向が引き続き観測されている。

4. 九州地方

1) 鶴見岳

- ・1999年12月20～21日に東約3 kmで地震活動があった（最大M3.3）。

2) 阿蘇山

- ・中岳第一火口の火口底は全面湯だまりが続き、火山性微動の振幅は小さいが、1999年9月頃からその出現様式の変動がみられ、また、地磁気に消磁傾向がみられ、地下活動は不安定である。また、南側火口壁下では噴湯現象を観測した。

3) 雲仙岳

- ・1999年11月24日に火山性微動を1回観測した。

4) 霧島山

- ・新燃岳では、1999年11月6日から地震が増加したが、11月10日の192回をピークに減少した。その後、12月16日には火山性微動が2回発生し、地震回数が一時的に増加した。微動はその後20数回発生している。新燃岳では、火山体浅部の温度上昇を示す熱消磁は検知されていない。
- ・高千穂峰御鉢では、12月初めから地震が増加した。ここで地震が多発したのは、1978年以来である。
- ・霧島山では、新燃岳及び御鉢を含め表面現象に異常はなかった。

5) 桜島

- ・噴火活動が活発である。特に1999年12月は104回の噴火があり、うち88回が爆発であった。月爆発回数88回は1995年の観測開始以降では1974年6月の93回に次ぐ回数であった。2000年1月の噴火回数は82回、うち爆発は58回であった。
- ・12月10日の爆発では多量の噴石を4合目まで飛散し、1,000mの火柱（1991年7月13日以来）と116回の火山雷を伴った。現地調査によると南岳火口東側約3～4 kmにかけて最大径4 cmの火山礫が飛散していた。この爆発による被害の報告はなかった。
- ・地震、微動回数はやや多い状態が続いている。
- ・地殻変動観測によると、桜島北部の隆起傾向が引き続き観測され、深部でマグマの蓄積が続いていると思われる、今後も活発な噴火活動が続くと考えられる。

6) 薩摩硫黄島

- ・地震回数は一日当たり数回～十数回で推移していたが、2000年1月21日から40回前後に増加している。
- ・1999年11月5日、19日、2000年1月16日に島内で降灰が確認された。

7) 口永良部島

- ・ 1999年7月以降増加した地震回数は10月の366回をピークに減少してきているが、7月以前と比べると多い状態が続いている。
- ・ 11月23日から口永良部島の東約10kmの海域で、深さ5～10kmを震源とする地震活動があった（最大M3.5）が、2000年1月に入り減少した。